

海防 第三卷第一號

東京帝國大學航空研究所報告

東京帝國大學航空研究所雜纂 第20號

工業と社會 第28卷 第2號

京都帝國大學部紀要第3卷 第10號

第4卷第1號

金屬の研究 第3卷 第3號

理化學研究所報告 48—50—51—53

理化學研究所彙報 第5輯 第3號

支那の社會組織 經濟資料 第12卷第3號

造兵彙報 第4卷 第2號

電氣製鋼 第2卷第3號

名古屋工業會々報 第35號

日立評論 第9卷第3號

日本工業要錄 第1卷第2號第2卷第2號

交換之部

帝國鐵道協會會報 (27. 2) 地學雜誌 (38. 445) 造船協會雜纂 (49) 機械學會誌 (29. 107) 燃料協會々誌 (42) 朝鮮鑛業會誌 (9. 1) 電氣評論 (14. 3) 日本鑛業會々誌 (42. 491) 工業化學雜誌 (29. 3) 工政 (76) 電氣學會雜誌 (452) エンヂンニヤリング (1413) 工業雜誌 (783)

海防義會

航空研究所

〃

東京工業會出版部

京都帝國大學工學部

〃

東北帝國大學工學部金屬材料研究所

理化學研究所

〃

東亞經濟調查局

陸軍造兵廠

電氣製鋼研究會

名古屋工業會

日立評論社

工業要錄出版部

日本鐵鋼協會第11回通常總會記事

大正15年3月27日(土曜日)午後1時より帝國鐵道協會大集會所に於て開會 出席者 贊助會員 正會員 50名准會員40名にして出席贊助會員正會員の氏名次の如し(イロハ順)

井上敏之介君 今泉嘉一君 伊東久米藏君 番場恒夫君 濱田忍君 橋本三彌君 花岡元吉君 堀江友三郎君 大塚榮吉君 渡邊三郎君 川上義弘君 神田製鉄所君 加茂正雄君 河村驍君 加藤榮君 香村小録君 横堀治三郎君 田子島茂次君 谷山熊雄君 俵國一君 辰巳英一君 種子田右八郎君 根本八君 中島辰一君 永野重雄君 永田五郎君 行方畝三郎君 室井嘉治馬君 村松橋太郎君 陸路録君 梅津七藏君 野田鶴雄君 野長瀬忠男君 久芳道雄君 山田賀一君 遠藤隆太君 朝倉希一君 秋山正八君 佐藤清勝君 齋藤大吉君 三島徳七君 三井合資會社君 鹽澤正一君 島安次郎君 鹽田泰介君 清水莊平君 日向庄作君 杉村伊兵衛君 諏訪常次郎君

開會の辭 過去一ヶ年に於ける製鐵事業の回顧 會長工學博士 河村 驍君

○會長(河村驍君) 日本鐵鋼協會第11回通常總會の開會を宣し、本號卷首に上梓の如く講演せらる午後2時10分より會長河村驍君議長席に着し議事に移り次の議案に依り審議せり

議案

- 1 本會役員改選投票
選舉委員 日向庄作君 室井嘉治馬君 鹽澤正一君
- 2 會務報告 (可決)
- 3 本年 11 月九州八幡市に於て第 2 回講演大會開催の件 (可決)
- 4 大正14年度收支決算並大正15年度收支豫算及財産増減に關すの件 (原案承認可決)
- 5 評議員當選者小原春孝君突然死去に付き之に代り久保田省三君推薦の件 (可決)
- 7 評議員種子田右八郎君理事に當選に付松田貞治郎君を以て補缺の件 (可決)
- 7 今泉香村兩博士を本會名譽會員に推薦並に兩博士に本會理事會評議員會に出席を求むるの件 (可決)

日本鐵鋼協會第11回總會議事速記録

大正15年3月27日(土曜日)午後2時10分開會

○議長(河村驍君) 先づ第一に御諮り致します、ことは役員の投票の開票に關する事ではありますが、是は時間の經濟上別室に於て行ふことに致しまして、日向庄作君、鹽澤正一君、室井嘉治馬君の御立會を願ひたいと考へますが御異議はありませぬか

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(河村驍君) 御異議がありませぬければ、日向庄作君、室井嘉治馬君、鹽澤正一君に御開票を願ひます、次に會務報告の事ではありますが、是は別に刷り物と致しまして、御手許に差出してありますから、時間を省く爲に朗讀を省略いたします、唯其中で特に目立ちました事項の一二に付て、説明いたしますと云ふと、集會に付きまして昨年10月17日から4日間に亘つて、本會第10週年紀念大會を開きましたこととありますが、會員御一同の協力と有志者の御後援に依りまして、盛大裡に式を擧ぐることを得まして、且つ本會始つて以來の第一回講演大會を催しまして、之に依つて更に毎年各地に於て、講演大會を催すの氣運を促進したと云ふことは御同慶の至りであります、本年11月八幡市に於て、第2回講演大會を催すことに決定いたしましたことは既に會誌上で御報告いたしました通りでございます、本年度の講演會数は7回でありまして昨年の11回に比較いたしますと云ふと會數を減じて居りますが併し紀念大會の席上で一時に14名の講演を願ひましたので、講演の數に於ては略々昨年と同數に達して居るのであります本年度の會員の入會者は112名でありまして、退會者が91名、死亡會員が11名、差引會員數は10名、を増加いたして居ります、近年の不況時代に拘らず、從來の會員數を維持したるのみならず、幾分でも會員を増加いたしたことは仕合せと致す所であります、本年中、本會の會員で有力なる方々の死亡者が11名ありましたことは哀悼の至りであります、殊に住友男爵は昨年10月に本會で名譽會員に推薦いたし、製鋼業に對する貢獻を表彰いたしましたのでありますが、其後幾日も経たない中に逝去せられましたことは洵に痛惜の至りに堪へざる所であります、又本會の會誌も漸次其面目を改むるに至りましたことは會員諸君の御寄稿と編輯員諸君の御盡力に負ふ所のもの多大なものであります、殊に本年中製鐵用術語撰定事業を完成いたしまして、之を10週年大會紀念事業として、印刷し會員に配布することを得ましたことは欣幸とする所であります、尙ほ製鐵鋼國策の樹立に付きまして、製鐵鋼調査會の開かれました場合に本會は數回評議員會を開いて、意見書を當局に差出したことは前に申し上げました通りであります、次に會計報告に付きましても矢張り此印刷物に付て御覽を願ひたいのでありますが、其中最も顯著なる事項は大正14年度の收入の中で有志者から多額の寄附を得ましたこととあります、其額は2萬2,800圓に達しました、14年度の支出に於て術語集の印刷に413圓58錢、事務長大矢喜兵が退職いたしましたので、此退職手當108圓、大會の經費が不足したので是に充當した金は778圓28

錢、東京電燈の社債券を購入した額面超過金額 157圓 39 錢合計 2,429圓 25 錢の特別支出を要したるに拘らず尙ほ歳入差引に於て2萬 1,589圓29錢の剩餘金を生じまして本會財政の基礎が著しく鞏固を加へたることは御同慶の至りであり、15年度の豫算は印刷の通りでありまして、別に申上げる程のにもございませぬ。

以上此14年度の會務報告、並びに14年度の收支決算、並びに15年度の收支豫算を一括して議題と致します、御質疑のあります御方は御提出を願ひます

〔異議なし〕と呼ぶ者あり

○議長（河村驍君） 別に御質疑ございませぬければ總て御承認を得たものと認めます（拍手）

大正十四年度會務報告

自大正14年3月 1日
至大正15年2月28日

1. 集 會 總會 1回 紀念大會 1回 理事會 11回 評議員會 4回 製鐵功勞者審査委員會 2回 編輯會 21回
講演會 7回

2. 會員移動	名譽會員	贊助會員	正會員	准會員	計
1. 入會者	4	1	45	62	112
1. 退會者	—	—	52	39	91
1. 死亡者	名譽會員 鵜野乾君 藤島壯助君 藤岩鶴一君	住友吉左衛門君 松隈三郎君 小原春孝君	正會員 林 密君 内田西八郎君 准會員 三輪卓郎君	田中富士太君 森重均一君	

以上11名を喪ひたるは哀悼の至りなり殊に本會名譽會員住友男爵の遠逝は痛惜に堪えざる處なり

3. 會員總數（大正15年3月現在）

1. 名譽會員	6名	新入會、4名の内、1名死亡、正會員より推薦者 1名、贊助會員より推薦者 3名
1. 贊助會員	22名	正會員より移動12名 新入會1名
1. 正會員	752名	終身會員を含む
1. 准會員	531名	
計	1,311名	

4. 事務員移動 本會事務長大矢喜兵、大正14年7月12日辭任したるに付き新に村松橋太郎就任せり

5. 會誌及印刷物の刊行 本會々誌「鐵と鋼」は第11年3號より第12年2號迄毎月1回發行せり、其他日本鐵鋼協會要録創立第十週年紀念大會次第並創立第十週年紀念大會概況報告を刊行し會員一般及大會來賓に配布せり

6. 調査事項

1. 政府に於て製鐵鋼調査會を設置し國策の樹立審議中なりしを以て本會評議員に於て數回審議の結果大正14年3月5日製鐵鋼業振興に關する意見書を作製し製鐵鋼調査會長高橋是清氏始め同會委員並に關係各方面へ提出せり

1. 製鐵用術語選定の件

大正12年1月以來本會に於て本邦製鐵用術語の統一を企て研究討議を重ねたるが選定語數1300語に達し昨年第十週年紀念大會事業として之を刊行し會員に配布せり

7. 圖書寄贈 本年度に於て寄贈を受たる圖書部數合計 475 部

8. 講演會 本年度中本會に於て開催せる講演會及演題左の如し

- | | |
|-------------------------------|---------------|
| (1) 大正14年3月28日 (第9回通常總會) | |
| 内外製鐵業の趨勢 (開會の辭) | 會長 工學博士 河 村 曉 |
| 鞍山製鐵所に於ける貧鐵處理に就て | 工學士 梅根常三郎 |
| (2) 大正14年4月30日 | |
| X線分析法より見たる金屬の諸性質 | 工學士 柿沼宇作 |
| (3) 同 年5月23日 | |
| 鋼の鍛冶に就て | 工學博士 井口庄之助 |
| (4) 同 年6月19日 | |
| セメンテーションに關する研究 | 工學博士 大河内正敏 |
| (5) 同 年9月26日 (日本鐵鋼協會、日本鑛業會聯合) | |
| ラメーン式收銅法に就て | 工學博士 小島甚太郎 |
| (6) 同 年10月17、8日 (第十週年紀念大會) | |
| 銑鐵の研究 | 工學士 谷 村 瀧 |
| 白銑の黒鉛化に及ぼす他元素及冷却速度の影響 | 工學士 澤 村 宏 |
| 鑄物砂の研究 | 工學士 三島德七 |
| 鑄鐵鑄物の鑄造應力と其除去法 | 工學博士 石川登喜治 |
| 金屬の硬化論 | 理學博士 本多光太郎 |
| 高溫度に於ける諸金屬の瓦斯吸收に就て | 工學士 岩瀬慶三 |
| 鋼の疲勞と其恢復 | 工學士 藤 井 寛 |
| 反滓鋼の研究 | 理學博士 松下徳次郎 |
| 製鋼作業に於ける脱酸及脱硫に就て | 工學士 大石源治 |
| 粉鐵處理の研究に就て | 工學士 平川良彦 |
| 砂鐵の研究 | 工學士 長谷川熊彦 |
| 鉄力に就て | 工學士 小原春孝 |
| 鋼に及ぼすモリブデナムの影響 | 工學博士 吉川晴十 |
| 電解鐵工業 | 工學博士 大河内正敏 |
| | 工學士 花岡元吉 |
| (6) 大正14年11月30日 | |
| 八幡の副産物一熱一鐵に就て | 工學士 黒田泰造 |
| 以 上 | |

以上報告候也

大正15年3月27日

日本鐵鋼協會々長 工學博士 河 村 曉

大正拾四年度收支決算報告 自大正拾四年三月十一日
至同拾五年二月廿八日

大正拾五年三月貳拾七日

支出之部	金額	收入之部	金額
會誌印刷費	6,049.50	正會員會費	6,512.60
凸版製作並に別刷代	1,699.97	准會員會費	3,910.90
原稿料	175.00	贊助會員寄附	22,800.00
約束郵便料	291.41	終身會員會費	150.00
事務費	1,505.04	入會金	151.00
報酬並に手當金	3,718.73	廣告料金	1,017.75
借室料	1,140.00	利子	2,615.27
會合費	348.80	雜收入	502.07
大會經費中へ充當金	784.23		
東京電燈會社々債買入超過金	157.39		
什器費	185.30		
圖書費	76.29		
工學會會費	200.00		
差引收入超過	21,327.70		
合計	37,659.59	合計	37,659.59

財 產 目 録

大正十五年三月二十七日

摘 要	金額	前年度に對する増減比較	
		前年度現在	増減額
家屋賣却未收入金	—	2,000.00	— 2,000.00
圖書	304.96	228.67	+ 76.29
什器	840.12	654.82	+ 185.30
有價證券	43,711.00	—	—
北海道拓殖銀行債券	¥ 9,850.—	9,850.00	—
京阪電氣鐵道會社々債	9,775.—	9,775.00	—
東京電燈會社債	12,919.—	2,919.00	+ 10,000.00
東京モスリン會社債	6,867.—	—	+ 6,867.00
東京市公債	4,300.—	—	+ 4,300.00
擔保金	1,227.00	—	—
會誌發行擔保	907.—	907.00	—
約束郵便擔保	35.—	35.00	—
借室料敷金	285.—	285.00	—
振替貯金	81.08	—	—
基金	¥ 10.—	10.00	—
貯金	71.08	596.60	— 525.52
銀行預金	8,651.74	—	—
特別當座並通知預金	¥ 5,651.74	5,967.90	— 316.16
定期預金	3,000.—	—	+ 3,000.00

現	金	2.38	—	2.38
		54,818.28	33,228.99	21,589.29

本年度財産増加額 貳萬壹千五百八拾九圓貳拾九錢也

大正拾五年度收支豫算

支出之部		收入之部	
費目	金額	費目	金額
會誌印刷費	6,400.00	正會員會費	6,300.00
凸版製作並に別刷印刷代	1,700.00	准會員會費	3,240.00
原稿料	300.00	入會金	100.00
約束郵便料	280.00	廣告料金	900.00
事務費	1,504.80	銀行預金並に振替貯金利子	650.00
報酬及手當金	2,680.00	公債並に社債利子	3,550.00
借室料	1,140.00	雜收入	450.00
會合費	735.20		
什器費	150.00		
圖書費	100.00		
工學會會費	200.00		
	15,190.00		15,190.00

上記之通り報告候也

大正十五年參月貳拾七日

日本鐵鋼協會會長 理事 河村 曉

○議長（河村曉君） それでは開票の結果に付て是より御朗讀を願ひます

○室井嘉治馬君 それでは申し上げます

會長	鹽田泰介君			
理事	鹽田泰介君	俵國一君	河村曉君	種子田右八郎君
	渡邊三郎君			
評議員	伊藤乙次郎君	原田鎮治君	西村小次郎君	大塚榮吉君
	小原春孝君	門野重九郎君	川上義弘君	加藤榮君
	横堀治三郎君	中井勵作君	永田五郎君	梅野實君
	工藤治人君	牧田環君	秋山正八君	齋藤大吉君
	寒川恒貞君	水谷叔彦君	日向庄作君	杉村伊兵衛君

以上の通り大多數を以て當選されました

○議長（河村曉君） 唯今朗讀いたされました役員の選舉に付きまして、一言御諮り致したいがございます、それは今回多數の選舉の投票に依つて當選せられました小原春孝君が不幸にして、數日前突然逝去せられたことと洵に痛惜に堪へない次第であります、就きましては再選の手敷を省きます爲に次點者たる久保田省三君に御願ひ致したいと考へるのであります御異議はございませぬか

〔異議なし〕と呼ぶ者あり

○議長（河村曉君） 御異議がございませぬければ小原春孝君の代りに久保田省三君を評議員に御願ひ致します、尙ほ種子田右八郎君が評議員から理事に轉任されましたに付きまして、其場合を豫想いたしまして、豫め評議員會に於て

補缺を選挙いたしました結果松田貞治郎君が種子田右八郎君の代りに評議員に就任されることになりましたから、是亦合せて御報告いたします、尚ほ此際皆様御披露申し上げますことは、今回改選の結果我々の尊敬する所の今泉香村兩博士が理事を退任されましたことであります、兩博士が本會創立の元勳であり、又前會長として本會の基礎を作られ且つ本會の理事として十年以上終始一貫盡瘁されたのみならず多年本邦の製鐵事業に對しても御盡力になりまして世に名望ある御方であることは私の申す迄もないことであります、そこで先般本會評議員會に於て審議の結果、兩博士を本會の名譽會員に推薦することになりましたから何卒例に依りまして拍手を以て御賛同の意を表されむことを希望いたします（拍手）

尚ほ今泉、香村兩博士は前會長として理事會並びに評議員會に御出席になり相變らず此本會を御指導下さることに付て、豫て御諒解を得てあることとあります、左様に御諒承を願ひたいと存じます、是にて總會は終了しました、五分間休憩いたしまして次の講演に移ります（拍手）

講演會（午後 2時 40分）

○總長（河村 曉君）只今より講演會を開會致します。粉鐵鑛還元燒結の理論考察に就て、山田賀一君に御講演を願ひます（山田賀一君の講演あり）（鐵と鋼近刊に掲載すべし）

會長（河村 曉君）それでは是れから重軌條及大形鋼の製造に就て永田五郎君の御講演を願ひます。

（永田五郎君の講演あり）（鐵と鋼近刊に掲載すべし）

會長（河村 曉君）時間が切迫致しましたから。是から直ちに準備を致しまして活動寫眞を御眼に掛けたいと考へますが、ちよつと一言講演者たる御兩君に御挨拶を申し上げます第一の山田賀一君の御話の粉鐵鑛還元燒結と申します事は、是は私は日本の製鐵の工程上將來非常に重要な一過程となるものと考へます、御承知の様に、日本の鐵鑛の資源の不足な關係上、將來鐵鋼の國策樹立上當てにして居るものは滿鮮の貧鐵鑛で之はコンセントレートとして矢張り粉鐵鑛になる性質のものであります、又砂鐵に致しましても皆粉鑛であります、其れから硫化鐵を焼きましたパープルオア、それを鎔鑛爐に入れるにしても皆燒結を要するのでありまして、此三つの問題を解決するには必ず燒結を経なければならぬのであります、斯う云ふ關係上山田君の今日の御講演は最も有益に拜聴いたしました次第であります、が化學的物理的且つ顯微鏡的に各方面より詳細に研究いたされた結果を御發表下さいまして、將來此の方面の作業上好箇の參考資料となる事を考へます。

次に永田君の御講演に付きましては過日野田技監に御願ひいたしまして、未だ鐵鋼協會では餘り從來雜誌にも又御講演の時にもローリングミルの事がないから、どうか一つローリングミルの事を御願ひしたいと云ふ事を御願ひしたのですが、御快諾下さいまして、多年御盡力になつて居る此ローリングミルの御話を伺ふ事が出来たのであります、殊に問題が民間の製鐵所で餘りやつて居りませぬ所の重軌條及大形鋼の製造に就いて御話下さいましたので、甚だ珍しく拜聴し、又大いに我々の蒙を啓かれた事と考へます、御兩君共御多用中の所遠路御上京下さいまして、我々の爲めに有益なる御講演をして下さいました事は感謝に堪えない次第であります。

皆さんの御賛成を得て拍手を以て御禮を申し上げたいと思ひます（拍手）

活動寫眞映畫（午後六時）

八幡製鐵所作業の狀態 説明者製鐵所技手安田勇吉君、本映畫は製鐵所最近の狀態にして封切同様のものを本會の爲め一般觀覽に供し下され加之安田勇吉君の詳細なる御説明に依り座ながら九州八幡市にある本邦製鐵の大權威たる製鐵所の最新式の設備を觀覽せしめられ其の益する處大と云ふべし茲に當面の方の御厚意を深謝す

本日の來會者 會員80余名來賓及び其他合計 126名に達し盛會の裡に終了し直ちに晚餐會に移れり

懇親會 午後7時20分

帝國鐵道協會食堂に於て開會出席者（イロハ順）伊東久米藏君 今泉嘉一郎君 番場恒夫君 大塚榮吉君 渡邊三郎君 加茂正雄君 香村小鐵君 川上義弘君 河村曉君 横堀治三郎君 俵國一君 谷山熊雄君 根本八君 永田五郎君 室井嘉治馬君 久芳道雄君 山田賀一君 朝倉希一君 秋山正八君 齋藤大吉君 三島徳七君 鹽田泰介君 島安次郎君 日向庄作君 來賓倉橋藤次郎君 安田勇吉君 以上26名にして晚餐デザートコースに入るや例に依り卓上5分間演説あり其速記は次の如し

鐵鋼協會總會晚餐會卓上演説速記

大正15年3月27日（土曜日）午後7時45分開始

○座長河村曉君 會長の任期が満ちましたに付きまして、ちよつと一言御挨拶を申し上げます、不肖の身を持ちまして會長に就任以來最早2年は夢の間に経過いたしました、不敏にして皆さんの御満足になるやうなことが何も出来ないで、甚だ遺憾に思ふ次第であります丁度私が任務を受けました當時は震災後でありまして、甚だ難局に立つた次第でありまして、どうか先輩諸氏に於て確立せられたる鐵鋼協會の基礎が危くならいやうにと云ふことを非常に心配いたしました、就任中斯う云ふことをやりたいと云ふ目的事項を定めて置きましたのでございますが、不十分ながら略其目的事項を完了することの出来ましたことは偏へに役員御一同、又會員皆様の御協力御後援に依る所であると深く感謝する次第であります、尙ほ本會々長の任期は満ちましたけれども、御選舉によりまして再び理事として就任することになりましたから、相變らず御同情御後援下さることを希望いたします、尙ほ一言鹽田新會長を御紹介いたします、是は私が申上げる必要も殆どないかも知れませぬが、鹽田博士が本會の、事業に非常に御趣味を有つて居られると云ふことは大正8年に故寺野博士の後を承けて今日まで6年間理事として御盡力になり、會の發展に御貢獻になつて居ることに依つても、之を證據立てることが出来ると考へます、鹽田博士は御承知の通り非常に眞面目な率直な御方であります、且つ元氣壯者を凌ぐと云ふやうな非常に元氣な方であります、其上に世の煩累なる職務を今御有ちになつて居ないので、本會の事業に専心御盡力を願ふのには、最も適當な御方と思ふのでありまして斯る新會長を得ましたことは、本會の最も仕合せと存ずる所であります、併し人には各長所と短所と云ふものは無論あるのであります、寧ろ長所の多い人程短所も多いかも知れませぬ、そこで互に相助け、相協力して、行くと云ふことに處世の意義があると思へますから、我々理事一同は、鹽田博士と協力し出来得る限の努力をいたしたいと思へるのでありますが、會員御一同に於かれまして、前會長同様、或はそれ以上に十分なる御後援あらむことを切に希望する次第であります、先づ鹽田新會長に御願いたしまして、例に依りまして五分間演説に移りたいと思ひます（拍手）

○新會長鹽田泰介君 私が計らずも本會の會長に選舉せられましたことは、洵に光榮であります、實は甚だ恐縮いたしましたのでございます、専門も違ひますし、併し専門が違つても知識のある人は相當に研究して居られますが、私は何等の研究もして居りませぬし、話も下手であるし、其他資格に於て缺ける所が非常に多いので、實は理事會に於て後任者の候補を選ばなければならぬと云ふ時に皆さん御寄合の時に、内輪のことを申上げるやうでございますが、今まで會長たる人はまあ此際は再任を避けたいと云ふことと、新しく理事についた人を會長にするのも如何かと云ふやうなことで、私は會長の如きは何年勤めても宜いと云ふやうな意思でございますが、多數の御意嚮としては、今のやうな御意思で、一面洵に良い所もあるやうに思ひましたから、到頭其處は負けて、又それを理事會は評議員會へ有つて出る候補者を選んで評議員會に掛けられるのであるから、其時に私はどうも自分では甚だ不適任と思つて居るので、一應は自分の信ずる所を申述べまして、多少の御同意者があるであらうと思ひましたが、どうもずるずるに引摺られて行きて、到頭今日皆様の御推薦に依りまして、選舉された譯で不肖の身で、心配を致して居るのであります、

此上は出来るだけの努力を致すより外はないと思ひます

餘り賢い遣り方ではないと思ひますけれども、此際私は私の立場をちよつと皆様に申上げて置きたいと思ひますのは、賣手買手と云ふやうなことで、此鐵鋼協會の性質上、色々のインテレストの人が會員にあるので、私も造船の方を常に經營いたして、居つて自然自分の頭が其方になつて居つたので、古い懺悔を申し上げますと・造船奨勵法のある時分には關稅か上ると云ふと、材料が高くなつて少しでも不利益であるものだから、關稅の上ることなどは反對したので、今泉博士邊から睨まれたことがあります。其時分はさう云ふ説でございまして、歐洲の大戦に遭遇して、鐵の饑饉の爲に、鋼材が1噸1000圓、銑鐵が4—500圓、と云ふやうなことを見ましてどうしても、是は日本で製鐵と云ふことが確立しないといけないと云ふことを非常に其時に深く感じまして、東京に出て來まして、寺野博士の後を承けて理事になりまして、外の理事各位に指導せられ別に意見の衝突もなく無事に濟んで來た譯でございまして、今の私は以前とは變つて、矢張り鐵は今泉博士の專ら御主張になる通り關稅政策に依る方が本當だと云ふことを信じて居るのでございまして、所が此會には色々の方が居られまして直ぐ前に居られる加茂博士とか或は其他……加茂さんの御説として別に伺つたことはないのですが……どうも大分其邊は反對が有りさうであります。此稅と云ふものは、國稅でもない方が宜いのだが、是は或る國民の負擔するだけはせなければならぬ、關稅も矢張り同じやうな意味で多少の不便は忍んでも矢張り國策の爲に犠牲を拂ふと云ふことがなければならぬと思ふので、色々當業者の方々にも鐵の關稅の影響と云ふものを承つて見ると、却つて當業者の方が左程に云うて居らぬやうに思ふのでありまして、どうか私は此中に居られる使用者側の各位に向つてどうぞ少しでも私が移つたやうな風に、皆様も鐵の國策確立と云ふ方に御考へを進めて戴きたいと思ふのであります。是は私が初にこんな旗色を明かにするのは甚だ不利益であります。本會の立場として詰り鐵鋼協會の本來が矢張り製造と云ふことが本位であらうと思ひますので、自分の考へを明かに致しまして、皆さんの内反對の御方々の特に御考慮を下されることを御願申す次第であります。餘計なことを申し上げまして甚だ恐縮でございまして、尚ほ只今河村前會長の仰の通り、全理事前會長の方々皆御援助下さると云ふことであります。勿論それを條件にして私は後任者たることを、意氣地なしにずるずるに引張られて御承けする譯であります。どうぞ皆様からも、私の身では本會として甚だ鼎の軽いと云ふことを御了承あつて、何卒御援助の程御願申て置きます

○今泉嘉一郎君 過去を回顧するに、本會の創立に際して第一回の會長であつた故野呂博士の非常なる御盡力は今更申上げるまでもない事、爾來累代の會長も各皆熱心に其職責をなされたのであります。殊に、最後の河村會長に至りましては震災の後を受け且本會創立10年の一期劃に際して諸般の整理に盡力され同時に積極的にも甚だ努められたのであります。其功績は今茲に委しく申述べるまでもなく諸君周知の事我々は茲に感謝する次第であります。而して今回更に新會長として鹽田博士が推薦された事は、是は當然な事であり、何故かと云へば、御本人は謙遜されて居りますけれども、第一御立場から考へても創立以來、我々が製鐵に重大なる關係ある造船の大家として本會理事の一人に推薦した故寺野博士が若し今日まで在世されて居るならば必ずや既に會長たるべき御人格である、而して不幸にして中途逝去されましたが故に、當時我々はそれに代る人として鹽田君を選擧したのであります。殊に外の理事が盡く會長として経過し來つた今日に至りまして、鹽田博士が會長となられるのは御立場の上から當然な事であると申すのであります。どうぞ今後本會の爲めに會長として充分の御盡力をなされむ事を希望いたします

扱て私は今夕の——此機會に於て御列席の斯界の權威たる諸君に對し御相談したい事が一つともう一つは社會に向つて宣言をして置きたい事があります。5分間演説ですから兩方2分宛……諸君に御相談いたしたいと云ふ事は從來世界各國の製鐵能力の比較法が當を得て居ないから、之れを改正したいと云ふ事であり、御承知の如く世界の製

鐵統計では通例亞米利加は銑鐵が何噸及び鋼塊が何噸、獨乙では幾ら英吉利は幾らと云ふ風に銑鐵と鋼塊とを並べて其毎年の製産額を掲げて居るのでありますが、一國の製鐵能力を表はす爲めには單に是れ丈では行かぬ、銑鐵と鋼塊とが並び立つても製鐵能力は一寸解らない、夫れは銑鐵の7割なり8割なりと云ふものは鋼塊の原料である、其原料となるべきものは之れを除いて置かなければならない、元來各國の製鐵能力を適確に知ると云ふ事が色々な點に於て必要である事申す迄もない事であり、然かも我國では未だ鋼塊用以外に使用される銑鐵の統計がないために正確な計算は出来ないが兎も角我國の製鐵能力も將來はもう少し適確に表はす方法を取らなければならぬと考いて居たのであります、所が數日前に郵送されて來たスタールアイゼン誌にあるドクトル、ライヘルト氏の世界製鐵統計改造説の意見が、是迄私共の考いて居た點と略々符合して居るのを見て世間にも同じやうに考へてる人のある事を察しました、兎も角此説の云ふ如き方法なれば製鐵能力の比較上一段の便利であります、其方法は外でもない銑鐵は其儘鑄物等に使用せられるもの丈を以て製鐵能力の内に算入し鋼塊の原料となつた部分は總て鋼塊で計算に入れる、さうして兩方を加へたものを初めて其國の製鐵能力とするのであります、其結果大分今までと違つて來るのです、從來の比較表では獨乙の製鐵能力が英吉利をとうの昔し凌駕して居るやうに思はせて居たが、それが多少趣きが違つた事になり、殊に戦後に於ては從來の如く銑鐵と鋼塊と並んだ統計で英吉利と獨乙と比較すると、英吉利の方が遙かに劣つて居るやうであります、新らしき方法で製鐵能力を比較すると、英吉利は銑鐵の大部分を輸出して仕舞つて置いて、さうして別に相當の鋼塊を拵へて居るので、其能力は獨乙より勝つて居る事になります、要するに新方法は從來に比して各國の製鐵能力を一層適確に表す事を得るものとして私は將來一般に此新しい統計法に依つて行きたいと云ふ考を持ちました、今世界主要製鐵國6箇國の生産能力を此方法で調べて見ると、1824年には米國4.496萬噸 英國1.298萬噸、獨乙1.132萬噸、佛國168萬噸、ベルギー251萬噸、ルクセブルヒ196萬噸、となり、此6箇國の平均では銑鐵産額の約2割が其儘で使はれて居つて、後の8割が鋼材として使はれるのである、我國でも假りに8割の銑鐵が鋼塊になるとすると銑鐵100萬噸 鋼塊100萬噸の生産ありとしても、我國の製鐵能力は120萬噸であると云ふ事にするのが正當であるやうに考へるのであります、どうか御互に將來斯う云ふ風な新計算の下に製鐵能力の比較をなすやうにしたいと云ふ事を御相談するのであります

もう一つ社會に對して宣言したいと云ふのは、我國は原料の關係から鐵鋼の自給自足と云ふ事は、到底出来るものでないなどと世間に往々唱へられて居るが、自給自足と云ふ事はそんな六ヶ敷いものではないと云ふ事であり、今我國の鐵鋼需要と其供給との關係を見ますと過去明治27年以來10年間に2倍餘宛になつて居るが、大正元年以後は形勢一變して10年間に3倍になつて居る、銑鐵と鋼塊とは少し違ひますが、兩方とも約3倍になつて居ります、需要の方はどうかと云ふと數量は供給よりも大きく増して行くやうに見ゆるが其實10個年間の増進率から云ふと夫れは供給の増加率に及ばないのであります、即ち大正元年、2年、3年、の3個年平均を以て大正11年、12年、13年、の3ヶ年平均に較ぶれば銑鐵に付ては生産増進率が2倍98となり、需要増進率は2倍37であり、鋼材に就ては生産増進率が3倍37で需用増進率は偶然にも銑鐵と同じく2倍37である、今若し今後此状態で相變らず進んで行くとすれば簡單なる對數の計算から割り出して見ても銑鐵は今後17年、鋼材は27年で全く自給自足する事となるのであります、此戦後の甚だ不振なる有様であつてさへも銑鐵は17年を以て鋼材は27年を以て各自給自足すると云ふ事になる、故に自給自足は絶對的不可能である様に云ふ事は大なる誤りであり、唯今日我々が心配するのは、國際經濟戰爭の激甚なる今日の場合、此17年、27年と云ふが如き年月を愚圖愚圖して居る事は出来ない、1年でも早く出來たら數年の間に自給自足する様に、しなければならぬと云ふのであります、而して此事は政府の政策と民間營業者の覺醒如何に依つて必ず出來得べき事であると云ふ事を茲に宣言する次第であります（拍手）

○俄國一君 別に御話することもありませんが、どうか新會長に宜しく御願します（拍手）

○横堀治三郎君 久し振りに此會に出席いたしまして、今夕大變有益な御話を拜聴いたしました、尙ほ前會長並に新會長の御挨拶等もありまして、御名殘惜しいやら、又嬉れしいやら、どうぞ此上とも新會長に於ても一層の御盡力あらむことを御願して置く次第であります、就ては私は餘り鐵の方は平常心得て居りませぬけれども却て局外から見た方が或は眞面目な眼鏡で見る所もあるだらうと思ひますから、ちよつと申し上げたいと思ひます、それは私が明治28年に大學の三年生で初めて釜石の鐵山に實習に参りました、其時に横山久太郎さんが所長であられまして私は非常に可愛がられたのであります、家へ連れて戴いたりして非常に學生として御親交を受けたのであります、或る日のこと横山さんに案内せられながら、工場を見に参りました所が、通路に一塊の鐵鑛が落ちて居つたのであります、横山さんは其鐵鑛を拾はれまして、私を案内し、色々御説明をせられながら、其鐵鑛を手につつて、廳で鐵石の積んである所に其一塊の鐵鑛を置かれたのである、其時に私は23歳でありましたが、其横山さんの舉動は今以て忘れられませぬ、恐らく私の在命中には忘れないのみならず、其ことは私の知人、一般の人にもそれは能く傳へて居るのであります、どうか其精神は私は事業家として十分涵養すべきものであらうと思ひます、其精神があつてからこそあの釜石の鐵山が其當時非常に苦勞して、今日になればやれ三井がどうか斯うとか申しますが、今日までに至る経路は十分察せなければならぬ、今の人は兎角、人のことを論議されますが、其苦心慘憺たる所の経路は私共は充分味はなければならぬ所のことであります、況して製鐵の如き、自給自足とか色々申されますが、なかなか是は容易なことでない、口には云ふけれども、實際問題としてなかなか容易でない、其覺悟があればこそやつたのである、所が近頃はやれ關稅問題やれ補助問題と云ふやうなことが、兎角云はれますが昔の横山久太郎さんの如きは一塊の鐵石を惜んで事業と云ふ、ものに樂を有つたのであります、それで私は大事業をするのに、補助も必要でありませうが、決して外から浸すことの出来ない程の熱心眞劍味が必要であると思ひます、どうか此製鐵事業も益々盛になることを勿論望みますが、それには關稅獎勵と云ふことも無論必要でありませうが、それと同時に横山氏の如き精神が必要でありませうと思ひます、今日の三井三菱にした所が、其基を成した人は横山さんと同じやうな、事業は違ふと云はれるかも知れませぬが其精神は同じことと思はなければならぬと思ひます、で獨逸人の精神が今以て變らない、此間獨逸から來ました人が森永の店でパンを買はうとして半斤賣つて呉れぬか云つた所が、森永の店では賣れないと云ふと、それならば止めて行くと云ふことでした、それまでに獨逸人は矢張り凡ての物に徹底して居る、どうかさう云ふ風にしまして、我々もさう云ふ精神を以て、製鐵事業の隆盛の爲に間接直接に微力を盡したいと思ひます。(拍手)

○齋藤大吉君 私は田舎に居りまして、斯う云ふ會に出ることはないので、テーブルスピーチは禁物でございますが唯今御話の通り既に河村前會長の御任期中の御盡方は非常なものであると云ふ御話もありましたし、又新會長の御意見の御発表もあつたやうですが、是以上申上げる必要はないと思ひます、或は私の考違ひかも知れませぬが、此間の議會に於て製鐵の補助の議案が通過いたしまして、所謂是からして銑鐵製造は洵に有利になる従つて鐵の事業も勃興し、段々盛になつて來ることであらうと思ひますが、さうなることを希望し、我々は喜んで待つて居る者であります、が其中で私の誤解かも知れませぬが、一つ物足らぬやうに、内容を見まして考へましたことは、此砂鐵を原料とするものに對しては補助されると云ふことになつて居るに拘らず、硫酸滓を原料としてやつて居られるものに對して恩典がないやうに私は拜見いたしましたのであります、此ことは大變に私は残念に考へるのであります、既に色々の論文でも拜見いたして居りますやうに、硫酸滓を完全に利用すれば、約20萬噸位出來るやうな統計になつて居るやうであります、其事業を獎勵する爲の費目がないやうであります、一緒に加へないと云ふことは残念に思ひます、是は私の誤解かも知れませぬが、私共田舎に居りまして、此案の内容に付ては能く存じませぬが、先日新聞紙上で拜見したやうな譯で、ちよつと私の考付きましたことを申し上げます。(拍手)

○加茂正雄君 私は先刻鹽田新會長の御話になつた、寧ろ消費者側の方に立つべきものだと思います、皆様のやうな

其道のオーソリテイのお在てになる所で何ら御話をする材料は持ちませぬが、別に考もないのでありますが、決して新會長の御聲明に對して御批評を加へると云ふ意味でありませぬが、施政方針と云ふ譯でもないかも知れませぬが、御聲明になつた所に依りますと、所謂鐵の關稅保護と云ふ説に自分は今日に於ては變つて居ると云ふことのやうに拜聽いたしました、是は御尤も千萬、併し消費者側から申しますと、關稅保護の場合に、消費者の犠牲の下に生産が成立つ消費者の或る犠牲を拂つて、そこで生産業者を成立させる斯う云ふことになるもののやうに思ふ、私の寡聞であるかは存じませぬが、今日までに於ては何れの國に於ても製鐵業は關稅保護の政策に依つて盛になつて來て居るやうに考へます、決して是が宜いとか悪いとかと云ふことを私は申述べのではない、唯其消費者のエキスペンスに於て産業が成立つて行くと云ふことだけは、私は是は間違のないことだと思ひます、それだけは此鐵鋼協會の方々は充分頭の中に入れて置いて戴きたい、今日に於て自給自足、或は國產獎勵と云ふやうなこともあり、國產獎勵と云ふ趣旨から申しますれば、是は大いに國產を出来るだけ愛用をしなければならぬこととありますが、其自給自足と云ふことが一體何處まで、國內に於て需要されるだけに對しての原料若くは材料が供給さへ出來れば充分であると云ふ腹なれは宜いかも知れませぬが、私は此發展をすべき日本國に於ては、さう云ふことを以て満足をすべきものではなからうと思ひます、日本に出来る材料を使つて拵へたものは廣く海外の市場に於て外國の生産品と競争をしても、勝利を得ると云ふ所まで進んで行く覺悟を以て、今日に於ては總ての施設をせなければならぬものであると思ふ、恐らくは皆様に於かれても御異存はなからうと思ひます、此二つのことを充分に頭に御入れ下すつて、將來の施設に對しては、根本の議論を御立て下さることを、特に此機會に於て希望いたして置きます（拍手）

○座長河村驍君 まだ9時の定刻までには大分ありますから、甚だ失敬であります、香村博士、それから島博士それから大塚君、最後に最も雄辯なる倉橋君に御願いたしたいと思ひます、皆謙の御賛成を得まして……（拍手）

○香村小録君 私は加茂さんと同様に別に御話をするやうなこともないので、今泉博士が長々と5分演説を確か17.8分もなさつて戴きましたから、今泉博士と私と俵博士と三人を平均すると、丁度5分以上になるかも知れませぬが、先づ御免を蒙りたいと思ひますが、唯今泉博士の御話になつた通り、河村前會長が僅かの年の間に本會の爲に非常に御盡力になり、本會の基礎も鞏固になり、又昨年大會に於ても盛大な式が擧げられ、我々は大いに感謝する所があります、尙ほ今回新會長の鹽田さんのことに付きましても、今泉君と全く御同感で、今後御盡力を御願いたしたいと思ひます、唯殊に私の欣喜に堪えないことは、此鐵鋼協會の存在と云ふものも大いに認められて、此鐵鋼協會として是まで唱へて來た所の主張が大いに政府に容れられまして、昨年からは製鐵業調査會と云ふものも出來、製鐵國策を立てなければならぬと云ふことに政府當局者も大いに努力されたことと云ふことも、此鐵鋼協會として屢々其筋に建議し、又平素雜誌上に於ても十分論じた所が大いに興つて力があつたので、それで一般並に政府當局者を動かして段々此國策に向つて進行すると云ふやうな氣運になつたことであらうと思ひますので、大いに其點は欣喜に堪えない所でございます、てまあ別に私申し上げますこともないのでございますが、先程横堀博士の御演説がありました、私も横山氏の下に10數年間釜石に於て働きましたのでありますが、唯其名前をちよつと御間違になつたやうですが、横山久一郎でなく、久太郎氏でございますから、其點だけは、皆様もどうか御記憶になつて居ることを御願いたしたいと思ひます、且つ横山氏のことに付ては、私も平素横堀博士と同じやうな感を有つて居ります、殊に10數年其下で働きましたものでございますから、最も感慨が深いのでございますが、其末路は洵に、まだ日本の製鐵業が洵に微らたる時代に、非常に奮闘されて、兎も角も彼處まで行つた人ではありますが、餘命を安らかに保たれないで、非常に矢張り生存中、同じやうな何で終られたことは、大變私も感慨に堪えないことで、それはどう云ふ譯かと申しますと、横山氏が多年非常な苦心經營で以て心身を過勞せられて、其過勞の結果病氣になられまして、其病氣になれまして、唯其製鐵と云ふことを非常に心配されて、今後どうなるかと云ふことを夢中に心配して、さうしてそれで以て到頭なく

なられたと云ふことは、私の非常に苦痛なことに感じますので、併しそれは横山氏は單に個人の爲でなくして、釜石鑛山が將來どうなるか、さうし潰れて仕舞ひやしないかと云ふことを非常に神経に惱まされて、さうして亡くなられたのでありますが、幸に其後一昨年から三井の經營に移りまして、將來發展の途に付くと云ふことになりましたことに付きましては横山氏も地下に於て定めて瞑せられて喜んで居られることだと私は思つて居りますのでございます、ちよつと申し上げます(拍手)

○島安次郎君 私は會長の指圖に従ふと云ふ慣例を破らないと云ふ意味に於きまして、兎も角も立ちましたのでありますが先刻來段々御話のありました如く、河村前會長御在任中非常な御骨折を得まして、本會が一段の進歩發達を見ましたことを厚く御禮を申し上げます、又新會長の鹽田博士も先刻俵博士の御話がありました如く、今後ともに宜しく御願いたします、それから今日私は少し遅れて参りまして、會長のアドレスを伺ふ機会を失ひまして、甚だ遺憾でしたが、御二方の御講演を拜聴いたしまして、非常な興味を以て拜聴いたしました次第であります、私は専門外でありまして、一向どうも製鐵の技術其ものに付て何等の智識を有つて居りませぬ故に、御二方の御話になりましたことはほんの僅か表面的に了解せられただけに過ぎないのでありますが、シンターリングの問題に付きましては、豫れて滿洲に居りました當時鞍山製鐵所の鐵鑛を處理しますことに付きまして、當局者から説明を多少聞いたことがありましたので、幾らか機械の名前位を承つて居りましたので、大變に興味を有ちまして懐しく思ひました、又後段に於きまして製鐵所に於かれまして軌條及び大形鋼を御作りになります際の有様模様等を御話になり、且又活動寫眞を而も封切を見せて戴きまして、非常な興味を、以て拜見いたしました、御二方に對して厚く御禮を申し上げます、就きまして私御指名を受けましたが、鐵道に關係のある人間だからと云ふ御心持ではなかつたらうかと思ふのでありますが、私はもう鐵道を退きましてから、相當年も経ちまして過去の間人であるので、近頃のことは餘り承知いたして居りませぬが、就きましては甚だ僭越でございますけれども、本日レールの製作に付きまして御話のあつたことでもありますし、鐵道省の秋山工作局長が御在でになりますから、秋山工作局長を煩はしまして、御所感を述べて戴きたいと思ひます、代つてと云つては甚だ失禮でございますけれども、どうぞ……(拍手)

○秋山正八君 どうも非常に良い先蹤を有つて居る爲に、斯う云ふ目に遭ふことを有難く思ひます。今日レールの御話がありました、鐵道の中でも御承知のやうに専門が各別れて居りまして、レールに付て私等一向、一向と申しては濟まぬ譯でございますけれども、スチールに付ては私等門外漢でありまして知識もありませんけれども、其發達進歩を願ふことは、外の工業に劣りませぬ、殊に御承知の如く近頃は私共は車輛も、機關車以外客車貨車、總て段々木部を減らして参りまして、スチールを使ふ状態になりました、段々輸送の單位も大きくなり、從て列車の單位が大きくなり、速度も増して來ました關係上、今まで使つて居りましたものは、スチールに變へなくちやならぬと云ふことになつて参りまして、客車の如きも今年度からは、柱、プレート、アングル、及び外壁はスチールに變へて行かうとして居るやうな状態であります、貨車の如きも運ぶ品物の性質の許す限りはスチールカーを作つて行かうと云ふやうな計畫になつて参りまして、此スチールの需要は益々殖えて行かうとして居るのであります、殊に最近に私等がスチールカーを作らうと計畫をしまして、早速當惑いたしましたのは、スチールカーの外側に貼ります外壁になります板であります、是が 1/16" から、7 厘から 3 厘 1/2" 位の板を使ひますですが、普通の軟鋼を使ひますと、色々困難があります、それで唯今では良カーボンのスチールを亞米利加から輸入して使はなくちやならぬ状態にあるのであります、將來當に此カーボンのスチールを亞米利加から輸入して使はなくちやならぬと云ふので、我々車輛製作に携はり居りますけれども、車輛を段々計畫して行かうとして、居る者の立場から見ますと、甚だ心細く感じます、殊に我々鐵

道の車輛に關係の者は或は國產獎勵とか何とか云ふことに傾き過ぎて居るかも知れませぬけれども、代々の是は傳統主義とでも申しますか、其關係で一品たりとも外國品を用ゐずにやらうと云ふやうな心持が強いものですから、殊にさう感じます、此會の會員諸君、私等はどちらかと云ふと彌次馬の方であります、製鋼に關係なさつて居る御方の御盡力に依つて、斯の如き材料もどうぞ日本で出来るやうになりましたならば、又此やうなスタイルは恐らく電氣機械に使ひます薄板と餘程關係が深いものと思ひますが、一方が出来れば又他の方も出来ると云ふやうな氣運に恐らくなるであらうと思ひますが、共に日本の工業にはなかなか重要な位置を占めて居ると思ひますので、皆さんの御盡力に依つて其方面の製造工業も出来まして。所謂自給自足と云ふことになりませうれば、嘗にそれを使用する便宜ばかりでなく、何となく非常に愉快に感ずる譯であります、其點に付ては一層御考慮を煩はして戴きたいと思ひます(拍手)

○大塚築吉君 私も今御指名を受けた一人でありますので、何か一言申し上げなければ相濟まぬ譯であります、立場の上から申しますと、先程加茂博士の御話のあつた如く、同じ立場に居りますので、成るべく鐵を廉く供給して戴くことを非常に有難いと思つて居りますが、併し唯廉いと云ふだけでなく出来ぬ物を、今秋山さんの御話があつた如く作つて戴くと云ふことが、寧ろ廉く供給して戴くと云ふことより一層必要ぢやないかと云ふ考で居るのであります、其一例として申し上げます、先程永田さんの御話にあつた如く、此市街鐵道に使つて居りますハイスティールであります官立製鐵所がロールを御切りにならぬ時には、1巻 180 圓で賣つて居つた、所が確か昨年春だつたと思ひますが、製鐵所があつたロールを御切りになつて、愈々出来ると云ふことになりませうと、1巻 130 圓に外國では下げて仕舞つた、實に非常な値下げである、是は矢張り日本で出来ぬ爲に 180 圓であつたものが、日本でロールを御切り下さつた爲に忽ちに 130 圓と云ふやうな値に下げたのであります、で唯關稅を引上げたり、或はどうと云ふことよりは、寧ろ斯う云ふやうなことで、現在日本にロールのない。作らないと云ふ物は非常な高い値を以て賣付けられるのですから。どうか鐵に御關係の皆さんは、斯う云ふ物を御研究を願ひたいと云ふことを、私ちよつと失禮を申上げるやうであります、御願いたしたいと思ひます(拍手)

○倉橋藤次郎君 河村前會長によりませうと、私が一番雄辯家であるやうであります、恐らくこの場合雄辯家と云ふ事は、終りに臨んで非常に勇壯活潑な話をやらせたいと云ふ前會長の御積りだと思ひますが、私としては最も勇壯ならざる最も活潑ならざる御話を申し上げたいと思ひます、と申しますのは、私は鐵にはなかなか關係のある人間でありまして、嘗て私が 3 年程外國に居りました時に主として調べましたものは、鐵に關する色々の燃料であるとか、爐材及び鐵に關する副産物と云ふ様な事でありました、其調べましたものは、タイプライターに打ちまして、100 頁位のもので出来まして、或る事業には多少役立つて居るのであります、云はば私は非常に隠れたる鐵の方の功勞者であります、(笑聲起る) そう云ふ事を私の口から申上げる事は、少しどうかとも思ひますが、偶には私もそう云ふ事を云はないと私と云ふ人間は常に皆を煽て、歩き、世間を騒がせてばかり居る様に思はれますので、此機會を利用して一言申し上げます、當時滿洲にマグネサイト(菱苦土鑛)が発見されまして、私はそれに付いて調べる事を委託されました、此滿洲のマグネサイトを色々の方面から調べて見ますと、非常に礦量が豊富でありまして、私の調べました所によりませうと、舊奧太利のスタイエルマルク、希臘のユーホエア、加奈太のクエベック、地方、亞米利加合衆國のワシントン州とこの滿洲の大石橋附近を大産地と云つて差支へない、其位の礦量があると云ふ事が分つた、それで非常な興味を以て調べました結果、此滿洲産は米國ワシントン州のものも礦量に於ても性質、物理的性質も化學的性質も殆んどよく似て居るのであります、元來亞米利加にはマグネシアセメントの材料に用ふるものはカリホルニアあたりに甚だ多いのであります、製鋼爐用耐火材料としては不適當で甚だ困つて居た、然るにワシントン州で発見されたも

のは3-4%の鐵を含んで居るので更に之れに鐵屑などを混ぜてシスターさせ、ちようど目的に適ふ様なものを人工的に造つて居つたのであります、其當時滿洲でマグネサイトの利用が問題となりまして。それに付て色々の會社とか研究所などが工夫をこらした、其れで色々調べて見ました所が、先程今泉さんの御話の中にありましたスタルウンド・アイゼンの1800何十年かの古い雑誌に埃國スタイエルマルクのマグネサイト鑛床の地質調査をやつて居る其れによりますと、スタイエルマルク邊の地質は炭酸マグネシウムから炭酸鐵鑛へのチェーンになつて居て、其チェーンの内鐵が8%から10%位含んで居る所が一番製鋼の爐材として適當である、其邊の分子式とか何とかは、私は其後世間を騒がし廻て居る中に、そう云ふ細い事は忘れてましたが、其邊のものをプリューネライトと云ふ名を興えて居るのであります、で私は滿洲の委しい地理は知りませぬが大石橋の産地から大分隔つては居ますが、兎に角北の方に鞍山があるのは、現在の所よりもつと北の方即ちなるべく鞍山に近い方を探鑛して見たならば、或はプリューネライト即ち鐵が8%位はいつて居る物が出て來やしないかと云ふ意見を滿洲へ云つてやりました所が、其結果でもなかつたてありませうが、まあ色々探しました所が、其後程なく電報が來まして、丁度そんな物が見付かつたと云ふ事で、非常に喜んだ様な次第であります、

、そう云ふ事もありました、それから是れは別の話になりますが、亞米利加の御承知の製鐵業の中心地なるピツバーグに居りました頃、どうも此ピツバーグの製鐵業と云ふものが盛時を過ぎて老年期に入つて居る様な氣がする、寧ろ發展の勢旺な處はオハヨー洲インヂアナ州殊に五大湖沿岸の地方であるらしいので、之はどう云ふ譯かと種々調べて見ました結果、私は副産物を探るコークス業の發達の狀態を統計的に見て行くと、米國では1917—8年頃に副産物を探らない、ピーハイヴ式の骸炭窯からのコークス産額と副産物を探る窯からのコークス産額とが平衡となり、其れ以來は副産物を探る方の窯からの方が多くなつて居る、而して此バイプロダクト、コークプラントは殆んど製鐵所の附屬であつて、ピーハイヴ式は主としてピツバーグの南方の有名なるコンネルスヴイルのコーキング・コール産地一帯に存在して居る、然るに之を州別に數字を當つて見ると、バイプロダクト、コーク、プラントの建設、増設が最盛んに行はれるのはオハヨー州で、其れからイリノイ、インヂアナなどの諸州が中々多い、即ちピツバーグから云へば西北の方にバイプロ、ダクト、コークプラントが殖える、更に適切に云ふと、五大湖のサイドに殖えて行く、之に反してコンネルス、ヴイルのピーハイヴ式爐は一向殖えない、寧ろ減つて居ると云ふ事實が著しく見られた、而して之は管にコークスの産額のみならず、鐵の産額に於ても矢張り此傾向は認められる、それで何故であるかと云ふ事を種々調べて見ますと、從來はピツバーグ附近のコンネルスヴイル地方の良質のコーキング、コール即ちコークス原料に使ふ最も適當な石炭を以てコークスを造る關係上、ピツバーグは製鐵上最も便宜な地位であつた、所がバイプロダクト、コークスの製造が發達すると、強ひてコンネルスヴイル地方の上等の石炭を使はないでもイリノイ、インヂアン邊に非常に多量に埋藏せられる所の劣等炭を使つて充分なるコークスが出来る場合になつた、之れも最初は2-3割位であつたが、次で漸次進歩した新式のコーク、プラントでは半分使ふ、60%乃至80%位使ふ様になり、残り半分以下のコンネルスヴイル地方のコーキング、コールを移入して使へば宜しいと云ふ事になつたので、コンネルスヴイル近くのピツバーグでなくとも寧ろ五大湖沿岸地方に製鐵所を建設した方が鑛石と石炭の運賃を差引計算して利益であると云ふ事になつた結果、製鐵會社に於て製鐵所なり従つてコークス窯を建設する場合には五大湖沿岸の地方即ちピツバーグから北西の方へ惹付けられて行くこと云ふ傾向が生ずるのでないかと、私は觀察したのであります、即ち從來はシュネペリオールの北西岸からオアホートで南岸まで鑛石を運ぶ尙それを鐵道でピツバーグ迄運ぶ、一方コンネルスヴイルからコークスを運ぶと云ふやうなやり方であつたのを、今度は鑛石は湖南の沿岸なり其附近に着く、石炭は大部分工場附近から來ると幾部分はコンネルスヴイル地方から運ぶ方が、運賃の關係から云ふても、石炭價格から

云ふても有利であると云ふ事となつたのであらうと云ふ事を其當時に於て感じましたのであります、之は専門家諸君の御意見を聞きたいと思ひますが、偶には斯う云ふ事も私が考える事があると云ふ事を一つ御承知を願ひます。今度は私の舞臺にはいりまして少し國産振興に關する、2—3の點を申上げたい、其れは最近非常に國産振興と云ふ事に付て非常な誤解がある、其れは國産振興と云ふと産業上の鎖國であると云ふ様に考へる人がありますが、是は非常な間違であります、其れから又國産振興と云ふと悪い物でも高い物でも國産品を強ひて使はせる、國産愛用と云ふ言葉によつて劣等な物でも、割高な物でも、無暗に使用を強要するものゝ様に云ふ者もありますが、是等は大變な間違であります。

併しながら又一方から考えますと良くて安い品物なとば、何處の品物でも何國の品物でも自由自在にはいると云ふのも、是れ非常な間違であります、經濟上の原則であるからと云ふつて、技術出身の諸君の中でもよくて安い物の輸入を強ひて國産振興と云ふ様な事によつて止め様とした所到底止め得られるものでないと云ふ人がありますけれども、其れは成程經濟上の原則ではあるけれども、元來原則などと云ふものは、其儘では決して適用される者でなく、當然各國共に其の國境によつてモデファイされて然るべきものであります、即ち原則は原則であるけれども、暫く内地の産業を振興させる爲には、斯様なモデフィケーションを行なつてもやらねばならぬと云ふ所に、關稅其他の政策が起り、從て又國産愛用が起り、國産振興が起るのでありまして、良い安い品物が何處へでもはいつて来る、それから又良い安い品物でなければ使はないと云ふ風になれば、産業に於ける後進國と云ふものは、決して永劫末代頭が上る余地がないのであります、それだからせめて暫しの間、多少品物は悪くとも、多少値段が高くとも、生産業者は國を愛するが故に、之れを何とかして廉くする工夫をする、又國を愛するが故に何とかして品物を良くする手段を講ずると云ふ風に愛國心に根本を置き、其れと共に需要者も多少品物は悪いけれども、國を愛するが故に之を使つて良くなる様にやらうとし、又多少値は高いけれども國を愛するが故に之を使つて需要の増加するに従つて、廉くなる様にさせ様とし共に經濟上の原則は原則とし、愛國心を以て強要するのではないが、少くとも愛國心をバックにして。さうして生産者と消費者と國産振興に努めると云ふのでなければ、今日産業後進國は永劫末代頭の上る機會はないのであります、此意味に於ての國産振興であります。又今一つ國産振興を云ふ事を言換へて見ますと、是は極めて簡單でありますから、あなた方の御子供達に御話になります時に御参考に願ひたいと思ひますが、國産振興と云ふ事を一番分り易く話をすると、要するに日本が5—60年來歐米學校に入學して居たものを、今度愈卒業をして世間に出て兎に角にも一人前になると云ふ事を産業上に言現はしたものが國産振興であります、又職人に喩へて云ふと、年期を入れて居つた其年期が明けて獨立する、又昔の武士で云へば元服する事であります、其れでありますから日本が元服をしたからと云ふて、又年期が明けたからと云ふて又卒業したからと云ふて、急に先輩であり、先生である所の歐米に對して弓を引かうと云ふのでもなければ、又喧嘩を吹掛ける、交際をしないと云ふのでもない、矢張り先生は先生、先輩は先輩として交際をする、併しもう弟子でもなければ、年期奉公中の者でもなければ、生徒でもない、獨立した一人前の人格を以て相對し、時として競争は勿論避けられないが、然し交際は益々親密にやると云ふのであります、習らうとすれば何時までも習へるかも知れないが、もう既に5—60年間習つたので、また捜せば習ふ方面はあるかも知れないが、さう修業年限を無暗に長くしても仕方がない、卒業の見込がない様ならば仕方がないから途中で退學してでもまあ一人前に獨立して働かうぢやないか、さうして働いて居る中に色々の仕事を以て、さうして競争はするけれども、併し喧嘩をするのぢやないが、仲違をするのぢやない、絶交するものでもないと云ふ、此意味を産業的に言現したものが即ち日本が歐米の追従模倣から獨立自主の立場になると云ふを産業上に於て言現はしたものが國産振興なんである従つてそれは排斥でもなければ自給自足でもなければ、唯單に一人前の人權を有つと云ふだけの事であ

る、斯く云ふ事を私はよく少年少女などに話して居りますが、若し間違つて居りますれば御訂正を願ひたいと思ひます、御賛成ならば御子供達に御話になる様な時にはさう云ふ事に御參考を願ひたいと思ひます(拍手)

○座長河村曉君 倉橋君は我々の期待した通り非常に雄辯に話されて、9時の制限も過ぎて仕舞つたので、私もちよつと一言御挨拶を申上げやうと思ひますが、9時の期限を御破になつたのは倉橋君が御破になつたので、私も5分ばかりちよつと申上げさせて戴きたいと思ひます、先程も島博士から御話のありました如く。今日の晝の講演會に於きまして、山田、永田兩氏から有益なる御講演がありまして、殊に此活動寫眞に付てはわざわざ説明の方まで連れて來て戴きまして、非常に製鐵所の御盡力を得ましたことを深く感謝するのであります、尙ほ隨を得て蜀を望むやうな次第でございますが、今日の御話は軌條及び大形鋼でありまして、其外厚板とか、小形中形其他色々の設備のことに付ても將來機會のある毎に御出席下さつて御講演下さることを切に希望いたす次第であります、尙ほ今夕は色々な有益な卓上演説がありまして、之に付きまして長々と意見を申上げれば、いつまで経つても盡きない次第であります、私は此製鐵事業が、諸工業の基礎であると云ふことから割出しまして、此鐵と云ふものは、諸工業の基礎である以上には、必ず廉く廉價に之を市場に供給しなければならぬと云ふことを深く心配する一人であります、どうしても諸工業を發達させるのには鐵が多量にあり、さうしてそれが而も廉くなくてはいかぬ、市場へ廉く供給するのが、是が製鐵事業を確立する目的でなくてはならぬ、そこで色々之を保護し、或は關稅を高めると云ふ様な事は一時的のものであつて、將來は倉橋君の御話の如く自給自足のみではいかぬ、之を外國に輸出せると云ふ域に達して、初めて日本の製鐵事業は確立するのである、さう云ふ道行に於きまして、今日の場合差當りどうしたら宜いかと云ふのが、鐵の國策の問題であります、今泉博士の御話の如く鐵の自給は計算上、銑鐵は17年、鋼は27年で自給が出來ると云ふ御計算の様であります、私はずつともつと速く出來ると堅く信じて居ります、て能く今年の議會邊りで商工大臣の答辯なども、日本の鐵は、鋼も銑鐵も漸く需要の1/2しか充たすことが出來ぬ、後の1/2は輸入して居ると云ふことを申されましたが、それは大正13年の震災後の最も輸入の多い、思惑輸入の多かつた當時の統計を取つて、答辯されたので、昨年の統計は今日開會の辭に述べました如く、銑鐵に於ては75パーセント。滿洲朝鮮を入れまして、無論滿洲朝鮮は我が國策としてはどうしても取入れなくちやならぬので、之を入れますと、75パーセント日本で自給して居り、鋼材は71パーセント自給して居ります、それで今日に於て鐵の戦後の苦心經營の結果、日本の製鐵と云ふものはどう云ふことをやつて居るかと申しますと、極端に人員を減じまして。役員は勿論職工に至るまで極端に人を減らしまして。出來るだけの經濟を圖り出來るだけ能率を擧げて居ります、さうして此以上の製鐵事業の生きる道は、一層能率を増進して大量生産をやる、さうして生産費を低減する積極的な此整理方法の一途あるのみである、それで苦しい中を、資金を出して輪西でも、釜石でも本溪湖でもパイロダクトコークスオープンを作つて居ると云ふやうな次第で、今日着々として設備も改良されつゝあります、今度の保護獎勵の案と相俟つて私はさう長く經たない中に自給自足と云ふことが出來ると深く信じて居るのであります、どうしても其處まで努力しなければならぬと覺悟して居るのであります、是に對し保護を加へる、其保護も強ひて突飛な保護をする必要はない、唯今まで諸外國が今日の鐵鋼業の繁榮を來たすまでに加へた保護に準じまして相當な保護を加ふるならば、私は10年とか20年と云ふさう云ふ長い期間でなしに、出來ることと信じて居るのであります、是を若し其儘にうつちやつて置き、さうして外國の輸入品に荒されるならば、段々退嬰を重ね或は縮少して行かなければならぬやうなことになるかも知れませぬ、さうすると云ふと詰り今の大塚さんの御話の如く、日本に生産が減れば、減るだけ外國は高くなければ決して寄越さない、現に、日本に相當な製鐵設備がある爲に今日の廉い時價で外國は持つて來て居る、例へば銑鐵に致しましても、日本の市場が50圓とすると、それよりか1圓なり2圓なり廉い値段で持つて來る、決して向ふが10圓廉く出來るからと云つて、10圓

廉く日本には寄越さない、日本の製鐵事業が若し潰れるやうなことがあつたならば、彼等はどうかと云ふと、一躍して10圓も20圓も高くする、斯う云ふことは明かなことであります、どうして自衛上相當の保護を或る期間加へて、さうして將來の安全を期する、日本の諸工業の發達はそれから先き安心して出来る、乃ち保護は一時の自衛である、斯う云ふ風な意味に於て、我々は此相當なる保護を希望する所以であります、尙ほ申上げれば、此等の點に關しましては多少考究いたして居る點もございますので、申上げることは澤山ございますが、是以上に時を過ぎすと云ふことは甚だ不本意でありますので、之にて打留めて置きます、最後に新會長の主宰の下に本會が益々隆盛にならむことを祈り、新會長の御健康並に皆さんの御健康を祝する爲に、御賛成を得まして乾盃を致したいと思ひます（一同乾盃）それでは是で散會いたします（拍手）午後九時十五分散會

大正十五年四月二十三日印刷

大正十五年四月二十五日發行

編輯人兼發行人	東京市芝區三田豐岡町六十番地	赤羽朝彦
印刷人	東京市神田區美土代町二丁目一番地	島連太郎
印刷所	東京市神田區美土代町二丁目一番地	三秀舍
發行所	東京市麴町區有樂町一丁目一番地東七號館内	日本鐵鋼協會

定價金七拾五錢

電話大手局三一四四番
 振替貯金口座東京一九三番